



## 同窓会会報平成二十三年秋号

同窓会会報に寄せて

同窓会会長 久保村昭衛



東京都立中野工業高等学校は本年六十六周年を迎えました。

同窓生及び在校生のご協力により明るく元気に活動して居ります。同窓会も同窓生九千五百名となりました。しかし四千名近くの方の住所が判明しておりません。そのため此の方々に同窓会会報を送る事が出来ません。一生懸命役員の方々が努力して居ますが住所が判明しません。同窓生の皆様方の御協力を切にお願い申し上げます。クラス会が開催された時その様子をクラス会便りとして事務局に届け願えれば幸いです。

毎年の行事として行つて居る全

生徒に対しての講演会も四年目となり七回を数える迄になりました。講演も卒業後、社会に出て努力して来た人生経験を話されて居ります。生徒に対しては大変好評で熱心に聞いて頂き、講演者も満足して居ります。

平成二十三年三月十一日に發生の東日本大震災は改めて自然災害の猛威について考えさせられました。被害に遭われた方々には改めて心から御見舞申し上げます。同窓会では、早速同窓生の安否の調査を行い、福島県 宮城県 茨城県 山形県 埼玉県 千葉県 の同窓生に対して電話及び人伝にて調査を行い大部分の方と連絡が取れまして異常ないとの事、一応安堵いたして居ります。

マグニチュード9.0超の巨大地震による未曾有の大震災は沿岸市町村の消滅と数え切れない人命の損失避難者に厳しい生活と防災上多数にわたる課題を残しました。被害者の心のケアと共に生活基盤の安定が第一であると思います。

一日でも早く正常な生活に戻れます事を願い、又同窓生のご健康とご繁栄をお祈り申し上げます。挨拶と致します。

着任の挨拶

副校長 豊岡耕一郎



この度、7月16日付で中野工業高校に副校長として赴任しました。豊岡耕一郎といひます。私は今から25年前、世田谷区にある工業高校で教員生活をスタートさせ、そこで12年間を過ごしました。そういつたこともあつて、今また工業高校に戻つてきたことを懐かしく思っています。それまでは高校という所は大学進学のためのバイパスみたいなもので、英数国の座学、受験勉強を中心とした高校生活を送つてきた自分にとって、専門教科が三分の一を占める工業高校での教育活動は非常に新鮮なものでした。やんちゃな子供たちも多かったのですが、その頃の生徒は、本当に機械いじりが好きな

子が多く、特に興味を示していた、車やバイクのエンジンなどの構造を通してもの作りの基礎を学んでいました。自分も12年間、子供達と一緒に溶接や旋盤などの機械を実際に動かしてみたり、自分の車のマフラーなどを治した経験をしました。何でも作られたものを買つてくるというのではなく、素材から工夫して自分でいろいろなものを作っていく。失敗も多くするでしょうが実習を通してメカニズムを理解していくというのが工業高校の教育でした。また、その頃は日本もバブル前の好景気ということもあつて、どの企業も人手が足りなくて市場も完全な売り手市場でした。教え子たちも、高校でさまざまな体験・勉強をして、次々と一流企業に就職していったものです。

さて、現状の中野工業高校はどうでしょうか？校舎は老朽化がかなり進んでおり、至る所にひび割れや漏水が見られます。また先の大震災の影響もあつて、敷地内に流れる川側にプール設備などが若干傾いており、全面改築が急がれます。しかし、東京都における改修の優先順位が高いにも関わらず、



工事車両が入れる導線が無いというところで、進展がまったく見られませんか。

生徒たちも最初から工業高校で学びたかったわけではなく、普通科に行きたかったのに仕方なく来た子供たちが非常に多く、専門教科になかなか興味を見出せないでいます。また、中学校での勉強不振や生活習慣の乱れからか規則正しい高校生活を送れず、学校を去ってしまう子供たちも多く残念な結果となっています。このような厳しい教育環境の中で、何とか状況を変えようと、教職員一丸となって教育活動を実践しています。

本来、工業高校は、ものづくりや自然科学に興味を持ち、実習や実験を通して学んだ後、理工系大学への進学や企業の即戦力として就職して、将来日本の工業界を支える技術者として活躍できる人材を育成することを目的に設置されています。こういった公的な職業教育機関の中で、工業高校は施設的にも人的にも勝るものはありません。しかし、産業構造や就職構造の激変とともに、先行き不透明な社会をも反映して、一方では有名大学から大企業への一元的な価

値観への偏重、他方では就職も進学もしないいわゆるフリーターの増大と二極化が進んでいます。東京都も大学進学に有利であるというところで、進学校や中高一貫教育の改革を推し進めるとともに、受験に不利であるということでも工業高校の縮小が進められてきました。しかし大震災からもわかるように、未曾有の事態に直面してみて、改めて生きる力ともの作りの大切さというものを思いしらされました。青年期にふさわしい力を育てる学校教育というものはどういうものかを絶えず模索し、どうやったらよい子が来るのではなく、今いる子供たちをどう良くしていくか、どうやって将来設計をさせていくかが我々の大きな使命だと考えています。この伝統ある中野工業高校を卒業され、さまざまな産業界で活躍なさっている同窓会の方々のご協力を得て、さらにより良い教育活動を行っていききたいと思えます。今後ともご指導ご支援の程よろしくお願いします。

## 中野工業同窓会の底力

元校長（第十七代校長）

石坂政俊



中野工業高校は、約一万人の卒業生を送り出し、日本繁栄の一翼を担っています。本校は、大正二年に創立された「高井戸実業補習学校」と「桃井実業補習学校」が前身で昭和二十一年四月に「東京都立農産化学工業学校」と「東京都立杉並工業学校」を統合し「東京都立農産工業学校」となり、昭和二十三年の学制改革で新制高等学校、そして、昭和二十五年「東京都立中野工業高等学校」と改称され六十五年を迎えます。校地も中野区桃園町から昭和三十年中野区野方に移りました。八年前、妙正寺川が氾濫し校舎、施設・設備が水害にあい、学校の存続が危ぶまれましたが、久保村同窓会会長の並々ならぬご尽力により、現在に至っています。

高校改革時には、人類の生命を維持する食糧増産を目指す工業教育を旗印に、機械科、食品工業科、工業化学科の教育課程の基調とした「設計製図系マシンデザインコース」、「電子機械系メカトロニクスコース」、「食品工業生産系フードテクノロジーコース」、「食品生物工学系バイオテクノロジーコース」、「生活環境化学系ライフエココロジーコース」、「基礎工学系カッレジコース」のコース制に改め、先端技術教育が必要とする新たな実習・実験装置を導入しました。

その後の食品機械産業、バイオテクノロジー産業の進展に伴い、食品工業と機械、食品工業と化学の融合を図る教育課程が全国から注目を集め「食品工業科」を有する全国でも類を見ない特色ある工業高校になりました。

平成二十三年三月十一日の東日本大震災が発生し、生活の在り方を根底から考へ直させる事態となりました。今までの経済成長や原子力政策に対する過信への反省、自然や人間性を軽視した行動への反省です。今後の日本人としての生き方を本当に見直す時期だと思



います。

戦後の高度成長は、私達の生活を豊かにし、国際社会からも信用を得るようになりました。気が付いて見ると産業都市に地方の若者を一極集中し、都市と地方の二極化をまねき、地方経済の衰退、家族構成の崩壊、少子・高齢化の中で、現在の人口一億二千万人が百年後には七千万人まで人口減少するとの統計調査があります。

老人の孤独死、乳幼児への虐待、医療不安、エネルギー問題、少子化等々を考えると、いかに家族構成が大切であるかを痛感します。

一つの屋根の下で、祖父母、両親、子供達が共に生活し、食卓を囲み家族団欒を図る、子育てを共有する、子供にも手伝いをさせる、お互いの悩み不安を家族で話し合う、時間の余裕があれば地域活動に参加する、日々の生活に安らぎ安心が生まれることでしょう。

在校生の皆さんは、中工の教育目標をよく理解し、これまで先輩が築いてきた良き伝統を伝承しながら、一人ひとりの個性を伸張し、社会の中で強く生き抜く力を付けてほしいものです。人生に勝も負けもありません、一生学び続ける

強い意志と忍耐力が必要です。社会で生きるには、人間性が豊かで自然現象を尊重する心を持つことも大切なことです。「人の痛みがわかり自分の痛みとして共感できる心」「社会や地域活動に自ら参加し貢献する力」を育むことが中野工業高校の真髄と考えています。校歌の一節に「油にぬれる 手と手をつなぐ わが友情は 美しく変わりなく たゆまぬ歩み 誓うもの 中野工業 われらの母校」とあります。

同窓生は、創立七十周年に向け東京都立中野工業高校の工業教育の原点にたちかえり、時代に即応した教育を一層発展させるためご支援ご協力をお願い申し上げます。

### 東日本大震災に見舞われる

23年度PTA会長 築城妙子



同窓会会員の皆さまにおかれましては、平素よりPTAと子どもたちへのご支援を賜り、感謝申し上げます。

今年の3月11日の痛ましい東日本大震災当日、中野工業高校では、あの未曾有の大災害でも全く混乱することなく、先生方の迅速な対応で、残っていて帰宅困難になった生徒を集め、炊き出し及び宿泊場所を提供していただきました。保護者として本当に安心することができ感謝しております。また後日に、被災地に本校で製造した缶詰などを援助物資として送ったと聞きました。本校ならではの被災地支援ができたことを誇らしく思っております。

震災での被害は原発を始め、農業、漁業など様々な被害が出ております。しかし、ここ本校でも震災の影響を受けていることがあります。それは、就職です。被災をうけ、高校生の就職は大変厳しいものになっています。しかし最後まで、あきらめず就職できるように、親として、子供たちを支えたいと思います。

震災前までは「自己責任」や「無関心」の風潮が現代社会に広がっていました。しかし、今回の震災をきっかけに「絆」という言葉がよく聞かれるようになりました。「絆」の意味を調べたところ、

「人と人との断つことのできない繋がり、離れがたい結びつき」と出ていました。子どもたちと学校とPTA、そして同窓会、すべて絆で結ばれております。

ですが、震災から半年以上が過ぎてしまったため、残念ながら少しずつですが、現代社会の無関心の空気が戻ってきているように感じます。だからこそ、今、私たちができる支援がしたいと思いました。

今回の震災で被災した岩手県立宮古工業高校では、校舎1階が津波に吞まれてしまい、多くの学習機材が流失してしまつたため、宮古工業高校同窓会で義援金を呼び掛けておりました。そこで、同じ工業高校である中野工業高校の全日制PTAとしては、中工祭にてメッセージカードと義援金を募り、また駄菓子屋等の売上も募金させていただくこととしました。

本校の子どもたちには、思いやりの心を持ちながら、立派な社会人となり、必ず将来の日本の為に役に立てる人材となり、またそれを後輩たちに伝えていって欲しいと願っています。



## 事務局よりのお願い

三月十一日の東日本大震災により犠牲になられた方々に対し心よりご冥福をお祈り申し上げます。被災された皆様には一刻も早く元の生活に戻られる事を切に望みます。

被災地に居住の同窓会会員は、宮城県六名、福島県五名、茨城県三十名、千葉県百三十四名（同窓会会員名簿で住所が確認されてる方）青森県と岩手県には居住者は居りません。同窓会としては会員の安否確認を致しました。宮城県四名無事、福島県三名無事、茨城県と千葉県は一部の方のみの安否確認です。

同窓会の活動の様子や、同窓生同志の情報交換の場として、本会報を発行しております。

同窓会活動資金として同窓会各年度（毎年）の会費二千円の納入をお願い致しており、毎年多くの方々より賛同を戴いておりますがまだまだ少数です。約九千七百名の同窓生の通信費、母校の部活動等の支援に資金が必要です。諸般の事情をご賢察の上、同窓会会員

各位におかれましては、各種お知らせの際同封の振込み票にて「会費二千円」を納入して下さい様お願い申し上げます。

また、住所移転の際には是非とも事務局までご一報下さる様お願い致します。

問合せ先事務局

350-1304

狭山市狭山台2-25-12

田中正二

Tel・04-22958469

Fax・04-22958197

E-mail: NQD06772@nifty.com

科学的思考を楽しむ

7F 渡辺正道



中野工業卒業のあと、S35年に大学を卒業し、電気会社に入社しました。S43年に現在の宮城県涌谷町（わくや）に自部門の事業部とともに転勤してまいり可変抵抗器の製造・開発・研究一筋38年間を努めあげました。そんな訳で卒業

後母校への足は遠のき、クラス会なども疎遠がちに過ぎてきました。昨年四月、級友だった林家木久扇師匠の五十周年を、七人の級友（女性三人）と一緒に祝う会を持ち、久し振りの旧交をあたためました。

涌谷町はテレビの地震情報でテロップによく出ますので、記憶にある方もいることでしょう。今回の東日本大震災で最も被害が大きかった石巻市の内陸側に隣接した町です。したがって、津波の被害はありませんでしたが、世帯数五千八百のうち家屋の損壊は四百あまり、死亡者十数名に達しました。我家でもS53年についてブロック塀の倒壊を蒙りました。一方、当町は歴史的にも由緒あるところです。天平21年（七四九）、奈良東大寺の大仏鑄造に使用する金が不足して憂慮していた折、この地で国内初の金が産出され献上されました。聖武天皇を喜ばせ年号が「天平感宝」と改められました。また、天平19年（二五九）伊達政宗の命により、涌谷伊達家が入城し仙台藩の重要な家臣の居館が置かれたところでもあります。そして、四代藩主安芸宗重公のとき寛

文11年（一六七二）、あの伊達騒動が起き宗重公は非業の死を遂げたのです。

私の仕事については前述しましたが、もう少し詳細を述べます。可変抵抗器は主にテレビ、ラジオ等のあらゆる電子機器の音量・音質・画質、電圧制御等の調整のため一般の人も触るいわゆるツマミに連動した電氣的機械的部品であります。この心臓部は主成分として、カーボンブラック（以下CBと記す）などの炭素の微粒子（数十ミリミクロン）を合成樹脂と混ぜ合わせ、ベークライト等の板に塗装や印刷をし、熱硬化させた皮膜です。それら材料の選択や配合により皮膜抵抗を変えいろいろな機器に対応できるようにしたものです。

原理的にはかなりシンプルなものですが、その性能（環境安定性）や機械的耐磨耗性を安定または向上させることに限界がありませんでした。炭素材料であるCBは、車のタイヤに代表されるゴムの耐磨耗性に大きな影響を与える極めて重要なものです。乾電池の電極、モーターの整流子、ブラウン管、鉛筆の芯等々多くのところで使用さ



れている歴史的な材料でもありません。同じ炭素材料に黒鉛があります。これもまた抵抗材料の一つとして使用されますが、潤滑剤などに使用されている柔らかく電気抵抗の低い材料です。性能を向上させるための研究は、CBと熱硬化性樹脂を緊密に結合させるためのCBの表面処理(実はCB類は化学的反応性に乏しい)の方法や樹脂類の変性、すなわち反応性官能基の導入などでした。未知のことを切り拓くためには、多分野に亘る学問の勉強と試行との繰返しで連続しました。これらの内容は、昨年、鈴木章、根岸英一の両氏が受賞したノーベル化学賞のカップリング反応と非常に似たものでありました。そういう点では自分なりに、いままさに満足のいく研究であったと思っています。

る日々となつていよう。最後に震災に際し皆さまからお見舞、激励ならびにボランティア等心温まるご支援をいただいておりますことを感謝申し上げます。

## 中工新聞

20FB 高津仁



定年退職後は、俳句やテニスなどの趣味を通して、第二の故郷であるここ涌谷の地で沢山の地元の人達との交流や英語の補助教師として来ている、海外からの若者たちとの親善活動にも努めています。どの活動においても、これまで経験してきた科学的に物事と対峙する習慣が生きがいを支えられてい

る日々となつていよう。最後に震災に際し皆さまからお見舞、激励ならびにボランティア等心温まるご支援をいただいておりますことを感謝申し上げます。

中野工業高校卒業後、数年は「中工際」で母校に訪れる機会がありました。20FBのクラス会は何度かあり旧交を温めておりますが、それもここ最近のクラス会

は欠席となっています。昨年は恩師名倉先生の喜寿祝いと我々の還暦の集いが開かれましたが、名倉先生や仲間たちには残念ながら会うことはできませんでした。先生の米寿と仲間の古希で会えれば楽しいですね。

高校生活の三年間は、齢六十一の私の中では僅かな期間です。しかし何年たつても、この年月は楽しく、ほろ苦く、輝いていた(と

いつては言い過ぎか)ことを思い出します。青年時代のとっかかりとして、少しばかり人生とは何ぞや、何を求めて生きるのかと考え始めた頃、仲間との交流ノートなるものを作りました。級友のA倉君を始めT田、F澤、A野、W部ほかの諸氏達で、ノート上で議論を交わしました。今思えば稚拙で未熟な議論でしたが、それでも、その時は真剣に書き、話し合ったものでした。社会的な利害関係など一切なし、自分達の思いの丈をぶつけ合ったことを思い出します。

議論といえば、今でも「中工新聞」はあるのでしょうか。私は、心ならずも編集委員会の委員長をやっております。就任の経緯はよく覚えておりませんが、おそらく先輩からの「お前やれ」の一言でしょう。この中工新聞の中で「中工を考える」という特集を企画したことがあります。2、3面見開きで、中工の現状とそれを受けての討論会の記事でした。この企画は全くの個人的な、級友との交流ノートからの思いつきでした。友の「仕方なくこの学校に入ったんだ」の言葉からです。仕方なくでも、今、これからでもやれる事、出来る事があるだろう、みんな

考えようやと、各学年から有志を募り討論会を開きました。二十人ほど集まってもらったでしょうか、いつになくみんな前向きに議論してもらった記憶があります。自分では精魂込めてまとめ、書き上げた記事で、「やった!」との思いでしたが、読者生徒諸君からの反応が芳しくありませんでした。企画が私の独りよがり、記事もみんなの共感を得るものでなかったのでしょうか。この時のほろ苦い気持ち忘れられません。

紙面には他校訪問もありました。これも私の「オレは女子高に行きたいんだ」と個人的な趣味で決めた訪問したこともありました。男子編集委員だけでは行きづらいので、級友のS川さんに同行してもらい、いざJ美付属高へ。生徒会長さんへのインタビューなど楽しい時間をすごすことが出来ました。もちろん記事はしっかり書きましたけどね。編集委員会では新聞だけでなく、文集も制作していました。「草苑」という文集です。全校生から募集した詩、エッセイや紀行文、そして先生方の言葉、卒業生の一言等々



を掲載しましたが、「草苑」は卒業文集のようだけど、そうでないというよく分からない文集でした。卒業生にとっては、在校生へ贈る一言が楽しみだったようです。この文集、今もあるのでしょうか。

昭和四十四年、後輩のN川君に次期編集長は「お前やれ」と言い残し卒業して行きました。N川君は「僕がなんで編集委員長に」と嘆いていたようです。N川君も今年は還暦、この経験が彼の中工時代の小さな良き思い出になっていたれば幸いです。

最後に、この原稿の依頼受けて、昔の事をあれこれ思い出す楽しい機会を与えて頂いたこと感謝いたします。また同窓生皆々様の今後のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

### 「いのち」に感謝

23CB 吉見 玲子



今日は、九月七日（水）、明日は、九月八日（木）、娘、玲於菜の誕生日、女子高一年生、十五歳最後の日にこの原稿を書かせて頂く事をとても嬉しく思っています。

三月十一日は、東日本大震災に見舞われました。こども（キッズからティーンズまで）の英語教室を自宅で営んでいて、その日もレッスンのある日でした。ちょうどあの日は、前日から娘は高熱を出して二階の部屋で休んでいました。私は、一階の居間にいました。ものすごい揺れが襲ってきました。

それもとてつ長い間、今までに体験した事のない言葉で表しきれない大地震でした。自宅前の外には、レッスンを受けるために待つてくれた親子がいました。自宅は、私の生家、建て直して約三十七年、リフォームはしていたものの連れ合いの勧めで数ヶ月前に耐震診断を受けていました。二階の娘が休んでいる部屋が一番耐震強化した方がよいというアドバイスを頭に過ぎりました。すぐに大きな声で、娘に向かって叫びました。「早く、二階から降りて来て！」娘が降りて来るまでの時間が長く感じられました。私自身、身体が震えてい

る事を自分で感じとりました。その次の瞬間、娘が勢いよく、高熱があつたにもかかわらず一人で、階段を降りて来てくれました。居間のテレビを私は、つけました。娘はこの時に、地震だという事が分かりました。「ママ、出口確保、玄関の戸を開けて。」とすばやく、アドバイスを。「頭を保護して、とにかく未だ何もしちゃダメ。」とあざやかな対応ぶり。日頃の学校の防災訓練に大感謝でした。

まずは、自分の身の安全確保。すっかり娘に助けられました。揺れがやつと小さくなったころ、外の電信柱にすっかり親子でつかまっていた生徒さんたちに声をかけさせてもらいました。「大丈夫ですか？」互いに不安と動揺がある中の私の精一杯の声掛けでした。「レッスンは、どういたしましょうか？」「教室にお入りになりますか？」一人の母親が「家族の安否がとても気になります。携帯電話、まったく繋がりません。」とおっしゃってくださいました。それだけに生徒たちも「こわい」「いや、僕は、大丈夫だよ。先生も守ってあげる。」「無言」「帰り道が心配。」結局あの日は、レッスンは

緊急事態という事で中止となりました。なんと不幸中の幸いであつたのかと日が経つにつれ、気づかされました。生徒さん家族が皆無事であつてくれた事はもちろん、私たち家族も無事でいられた事は、本当に感謝です。当たり前の様に思いがちな日常、家族、友人、日本社会、決してそうではない。かけがいのない「いのち」の大切さを再確認の時でした。

このような思いを体験した後、私の亡くなった父の声が聴こえました。父が本校への進学を勧めてくれていました。私は、父親ついで、高校時代は男勝りな気性でした。負けず嫌い、やりたい事は行動する。失敗は後から考える。そのお陰で「失敗は成功のもと」と悟りました。娘の玲於菜には、愛らしく育つて欲しいと願い、もちろん本人の希望でもあつて、女子高校へ進学しています。

しかし、中学一年の夏、「何故、男子はいないの？」とトンチンカンなセリフ。最近では、「ああ、このままでは、終わっちゃう。」と順調な成長？！なのか意味不明な発言。おまけに、母親ゆずりの男勝り気性。この先、どうなつて





いくのでしょうか？もちろん親バカですが、思いやりのある愛らしい女の子に間違いありません。日本舞踊も習っています。「何が何でも大学は、男女共学にします。」とハリキッています。因みに私は、社会人のち専門学校で英語を二年間学び結婚後、放送大学にて一般教養学部、教育と発達を専攻し、学位を修得しました。子育て同時進行でした。

同窓会に出席させて頂き、ちょっと場違いかしら？と思う事も束の間、気さくに男女の隔たりなどまったく感じさせないすばらしい先輩たちと出会えました。とにかく、お元気でいらつしやいます。私は高校時代だけでなく又、勇気を与えて頂きました。今、スポーツジムでアクアビクスとフラダンスを楽しんでいます。娘の高校の役員も楽しみたいと思っています。このような投稿の機会を与えて下さり、本当にありがとうございます。まだまだ若輩者ですが、どうぞこれからも宜しくお願い致します。

### 没有白费

私は食品工業科を卒業しましたが、就職したのはデパートで、仕事は接客業でした。三年間学んだ知識はデパートで生かす事は無く、仕事を覚えるのに必死で、いつの間にか中工での記憶といったら、学んだ中身でなく、楽しかった思い出ばかりになっていました。

こんな私ですが、忘れられない実習のレポートがあります。解熱剤を作ったときのレポートの最後に、「自分が作った薬は怖くて飲みたくない。薬は買って飲みます！」と書いて提出しました。

先生からの返事は、「他人の作ったモノは全て信用できますか？」と書いてありましたが、当時の私は「売っているモノに変なモノがあるわけがないのに、何を言っているのかしら？」と理解しようとしもしないまま卒業してしまいました。

でも、卒業後に、非加熱製剤による薬害事件を知った時、先生が

伝えたかったのは、こういう事だったのだと、やっと理解しました。今でも時々見かける、企業からの「リコールのお知らせ」は、売っているモノ全てが信用できるわけではないという事だけでなく、それ以上に、モノづくりの責任の重さを感じます。

在学中にもっとアンテナを張っていたら違う自分になっていたのでは？と感じた時もあります。中工で習得して、今とても役に立っていることもあります。

四年前から趣味で中国語を習っていますが、苦労したレポート作成のお陰で、自分なりに解り易いノートを作って勉強しています。四十歳に差し掛かる大人が語学を修得するのは容易ではなく、ストレスを感じそうになりますが、ノートを見て、調べ直したい事がサッと見つかって気分がスッキリする瞬間は、学ぶ事の楽しさを実感する至福の時です。

この原稿のタイトルにした、没有白费、は、中国語で「経験した事は無駄ではない」という意味です。執筆の依頼を受けた時、大好きな中国映画の「至福の時」（原題は、幸福時光、）をタイトルにした。

て、思い出と近況報告が出来れば良いなと思いましたが、書き進むうちにイメージが変わってきました。

若い頃からよく、「女の子が何故、工業高校に？」と聞かれ、最近では、「中国語を習い始めた理由は何？」と聞かれます。どちらにも立派な理由がないので手短かに答えています。どちらにも共通しているのは、全く無駄になっていないという所です。

中工に通っていた頃の楽しかった出来事や、笑ってしまうような失敗談は、幸福時光、なだけではなく、没有白费、なのです。

この場で、思い出と、大好きな中国語の話まで出来て、私の人生は本当に、没有白费、と改めて思いました。謝謝！

### 同窓会講演会について

同窓会では、母校六十周年を契機として同窓生による講演会（卒業生の貴重な経験を、後輩たちに残していこうという事で）を活動の柱の一つとして、年二回開催する事になりました。平成二十年十



二月十八日に初講演会を開催いたしました、講師として、第十期機械科卒の池田和司（弁護士、弁理士）さんが快く引き受けてくださり、ご本人の卒業以来の歩みと、裁判員制度について話されました。この制度は平成二十一年五月から実施され、国民は等しく参加する義務があります。

第二回目は平成二十一年三月二十三日に第七期工業化学科卒の中村真一さんが、シニア海外協力隊として「ラオス」の首都の浄水場で水質管理について指導してきたことを話されました。

第三回目は平成二十一年十二月二十四日に第十八期工業化学科卒の左巻健男（現法政大学教授）さんが「ゼロからの旅立ち」と題を定め話されました。

第四回目は平成二十二年三月二十四日に第十四期食品工業科卒の武政三男さんが「スパイスと健康」と題を定め話されました。

第二回目と第四回目では卒業生の講演後警視庁生活安全部の原俊明副主査殿が「少年の健全育成」についてのお話をされました。

第五回目は平成二十二年十二月二十二日に第十期機械科卒の梅田

清永さんが「卒業後の歩み」と題を定め話されました。

梅田さんの講演後本校スクールカウンセラーの田波勝様がお話しをされました。

第六回目は平成二十三年七月十九日に第十一期工業化学科卒の渡邊義さんが「絆」と題を定め話されました。

渡邊さんの講演前に警察より「交通安全について」の講話とビデオの放映がありました。

第七回目は平成二十三年十二月二十一日ごろに第五十四期総合技術科電子機械系卒の鹿島秀一さんにお話ししており、題は「ソーラカーについて」お話しされる予定です。

第八回目は平成二十四年七月二十日ごろに講師を検討中です。

### 講演会で出演者の投稿

#### 卒業後の歩み

10MB 梅田 清永



私は、昭和15年、東京都杉並区に生まれ、同 区立の中学校を卒業し昭和31年4月、都立中野工業高校の機械科に入学した。同年4月34年3月機械科卒業、同年4月萱場（カヤバ）工業（株）（現 KYB 株）に入社した。

1. 就職先を選ぶ時のひとつの考え方について  
高卒の就職内定率が厳しい状況の中である昨今、就職先を選ぶ時、色々な条件の中で、ひとつの考え方について提案するので参考になれば幸いと思う。

①中小企業でも、「これから会社が伸びそうだ」と言うことも見ながら

②自分の実力にあっているのか

③自分の学んだことが企業で役立てることが出来るのか

④自分がその企業でやることが世の中に役立つ可能性はあるかな等を考える。

就職ができたならば、就職したならば、そこで努力し、ある程度は我慢して耐えること↓『努力・忍耐』これは、何にでも共通することだ。

私はこのような考えに基づき就職先を選んだ。

↓中小企業・自分の波長（考え）と波（企業の方針）が合えば、多くの経験といい仕事：社会の役に立つ実績が残せる。

2. 萱場工業（株）に入社してから

昭和34年 入社時の会社状況

①業種：輸送機器（自動車のショックアブソーバー等） 油圧機器の製造

②資本金：3,800万円

③従業員数：約800人

④試用期間：6ヶ月 給料：7,600円/月↓本採用後 給料：8,600円/月

その年昭和34年大学を受験したが入試に落ちた。

3月下旬から正式入社に先駆け、会社の見習い実習が始まった。入社式は4月1日にあり配属先が技術部研究課となったが、私自身は工場の生産現場を経験してから間接部門に進みたかった。いきなり技術部研究課に配属となりおどろいた。

4月1日から、大卒新入社員と一緒に三ヶ月間は、午前中：実習・研修、午後：職場に戻って勉強となった。実習・研修を終了し、正





今日は「絆」というテーマで、お話しをさせていただきます。日本の人は今ほど絆という事を実感している時はないと思います。

「絆」を国語辞典でひいてみると、①牛馬等をつなぐ綱。②人と人との離れがたくしているもの。③断つことが出来ない結びつき。とあります。三月十一日のあの震災から、人は一人では生きて行けず、他の多くの人との係わりの中で生きていく事を実感しているのだと思います。

私は昭和三十五年、中工をなんとか卒業いたしました。すぐに父が経営する独逸顔料工業(株)に入社しました。会社は、箔といって、出版物、例えば、文学全集や百科事典等の装丁の図柄や文字等に使う物を造っていました。金箔等がその代表的な物ですが、当社は、

東京の営業へ転勤となり、海上自衛隊、艦船を建造する造船所へ多くの装置の提案・売り込みを行った。私が航空機器事業部と連携してプレゼンテーションしたシステム装置『航空機タイヤ組み立て装置』が航空自衛隊百里基地、千歳基地を始め、多くの航空基地に採用された。

平成12年9月60歳で定年退職したが、同年10月 引き続きカヤバ工業(株)に常勤嘱託で再就職し営業部長補佐として勤務し、平成16年3月、退職した。その年の8月 ハローワークの紹介で病院にパートの営繕係：何でも直し屋、として就職し、平成20年3月 病院が閉院となったため解雇となった。

病院に就職中に地域の町会より推薦候補となり、杉並区より推薦され、平成17年7月 厚生労働大臣より東京都民生委員児童委員の委嘱を受けた。現在地域福祉の向上の一翼を担い、ボランティアとして活動中である。

レータの開発や深海マンガン団塊の採取実験などの開発に参加した。その頃、出版社から技術論文の寄稿を依頼され、投稿した↓水中マニプレータ：油圧技術(日刊工業)、ロボット(日本ロボット工業会)

3. 研究所から工場 設計部プロジェクトチーム へ転勤

研究所と工場設計との大きな違いは、設計図面の納期・コスト(採算性)の厳しさである。考えれば当たり前ではあるが、再認識させられた。

工場の設計プロジェクトでは、潜水艦救難母艦：水中油圧装置の設計及びラムテンシヨナの基本設計・補給艦：洋上補給装置用油圧装置の基本設計↓生産設計・三重工場へ単身赴任・幹部昇格補給艦『とわだ』『はまな』『ときわ』の3艦の洋上装置、艦内移送装置の主任設計課長となった。『洋上補給装置』、『艦内移送装置』とはどんなもの・補給艦に

装備され、PKO絡みの一環としてインド洋上で同盟国艦艇に、油・物資を補給するための装置。

4. 工場から営業部へ転勤  
平成元年6月 設計技術を武器に、

式に職場に配属となり、最初の仕事は先輩研究員の助手で、実験治具の製図・設計の手伝いであった。仕事が慣れてくるに従い、実験の手伝い、簡単な実験治具の設計を任されるようになった。就職して1年後、新入社員が実習・研修に来た際に、研修の一部を担当するようになった。

就職して2年目の昭和36年2月、会社から歩いて通える芝浦工業大学の機械工学科2部(5年制)を受験し、やっと合格した。

大学の機械工学部を卒業後、これからは電子技術も必要になると考え、東京電機大学電気学校(夜間の専門学校：2年制)電子科に入學し、卒業した。

昭和45年 浜松町の研究所が神奈川県相模原市に移転したため、毎朝5：30に起床し、杉並の自宅から相模研究所へ通勤した。相模研究所では

①国鉄技術研究所と共同で貨車操車場入れ替え作業の自動化機器の研究開発：実用化に成功し、高崎郡山貨車操車場などに設備されたが、国鉄の貨物輸送方針の変更でやがて廃止となった。

②海洋開発の先駆け：水中マニピュ



顔料で色箔という物を作っていました。その後、昭和五十年頃に、研磨テープという物を開発いたしました。研磨テープというのは、簡単にいうと、極微細なサンドペーパーと違っていただければいいと思います。用途は当時、始まりだした磁気記録に必要なメディアとヘッドの最終研磨に使われます。

しないかも知れません。ただ皆さんはそれを知らないだけです。でも当社の製品もパソコンを買ってくれる皆さんがいないと、宝の持ち腐れになってしまいます。「持ちつ持たれつ」ですね。

昔、当社の社員と食事をした時にこんな質問をしたことがあります。「この一回の食事をするのに何人ぐらいの人の世話になつていくか?」と。ある人は、指折り数えて「30人ぐらいかな」。ある人はもう少しよつと多い「100人ぐらいじゃないか」と。ある人は「もつと多勢なんじゃないか一万ぐらいだよ」と。本当の所は私にもわかりません。でも私は、一回の食事で百万人の人にお世話になつていくと思ひます。今、ここにサンマの塩焼きが出て来たといいます。さあ、この一匹のサンマの塩焼きに何人ぐらいの人が係わつていくのでしょうか。まず、サンマを運んで来てくれた店員さん、サンマを焼いてくれた料理人、サンマを捕つてくれた漁師さん。そのくらいはすぐに思いあたつて、その他の人を入れて30人ぐらいになるでしょう。でもサンマを捕るための船はどのようなのでしょうか。船を造るには

多勢の人が係わっています。船を動かすには、燃料が必要です。原油を採掘し重油とする間にも、それは多勢の人が係わっています。又サンマを捕るには大きな網も必要です。網を造るにも原油からプラスチックにするまでも多勢の人が係わつていと思っています。そのプラスチックを糸にし、縫つて網とする間にも多勢の人が係わっています。船が港についても、セリをする人や鮮度を保つ為に多量の氷が必要になります。この様な仕事にも多勢の人々が係わります。

多勢の人が係わっています。船を動かすには、燃料が必要です。原油を採掘し重油とする間にも、それは多勢の人が係わっています。又サンマを捕るには大きな網も必要です。網を造るにも原油からプラスチックにするまでも多勢の人が係わつていと思っています。そのプラスチックを糸にし、縫つて網とする間にも多勢の人が係わっています。船が港についても、セリをする人や鮮度を保つ為に多量の氷が必要になります。この様な仕事にも多勢の人々が係わります。

歯車です。その一つ一つの歯車がきちつとした機能をはたす事によって会社が会社として機能しています。いずれ皆さんは社会人として世に出るわけですが、どうか素晴らしい機能を発揮する歯車になつて下さい。その様な人の集まりが「絆」を感じられる素晴らしい会社だと思います。

#### クラス会便り

17 MA 西村満郎

一昨年に続き年1回のクラス会を去年催しました。H22、10、30、場所は静岡県伊豆の稲取温泉です。一昨年は群馬県の伊香保でした。

私共1年の入学時には45名いました、毎年のクラス会開催にて住所不明者の情報を得ようとしております。

想像出来ないくらいの人々が係わっているのです。一回の食事で百万人の人の世話になつていと思う私の考え方は違つていないのではないのでしょうか。

昔「歯車になるな」と言われた事を思い出します。でも今、私が思つていのは、歯車でない人なにかいという事です。会社で言えば、社長でも課長でも一つの

住所判明者は、17名で今回の参加者は、12名です、内1名は台風のため、途中で電車が不通になり棄権し、11名の参加者と成りました。遠くは仙台、群馬、茨城、埼玉、東京、横浜、それに地元に住じた静岡の人達です。自営者を除き、私共団塊世代も定年退職者です。クラス会に参加出



来る人達は、積極的にどんどん参加して頂きたいと思います。

自営業者は、親の代から受け継いだ人達は3人で、独立して自営している人達も3人です。是は多くないでしょうか？工業高校の特徴でしょうか？

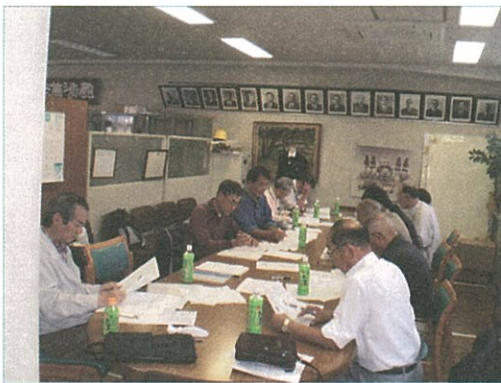
又、今年のクラス会は、震災で被災した、元生徒会長の猿橋君を励ましながら、皆して行く事になっております。彼は退職後、趣味を生かし一軒の店を昨年構えました。人望のある彼は開店早々客にも恵まれました。

震災後、早い時期に店を復旧させ、客足も彼の人柄で、また集まってきた様です。

私共17MAの卒業生の「生き様」をお互い確認しながら生きて行きたいものです。



クラス会の幹事さんへ  
同窓会の輪を拓ける  
為に、クラス会を開催  
した際には、クラス会  
便りと出席者の集合写  
真等を同窓会事務局ま  
でお知らせ下されば幸  
いです。



役員会の様子

H23-10-9



体育祭の風景



H23-9-30



「卒業生の歩み」展示の前でPTAの方と

H22-10-31



## 平成23年度総会資料

### 平成22年度事業報告

#### 活動目標であった

1. 同窓会会報の発行。10月25日に発行する事が出来た。

講演会の開催。12月22日に開催する事が出来た。

2. 行事（催し事）。

- |      |           |                           |           |               |
|------|-----------|---------------------------|-----------|---------------|
| (1)  | 平成22年4月7日 | 母校入学式                     | 3名出席      | 於：母校体育館       |
| (2)  | 5月8日      | 役員会                       | 9名出席      | 於：母校校長室       |
|      |           | 22年度収支決算の検討、総会についての検討、その他 |           |               |
| (3)  | 6月6日      | 22年度同窓会総会                 | 19名出席     | 於：グランド・パレスホテル |
| (4)  | 7月18日     | 役員会                       | 13名出席     | 於：母校校長室       |
|      |           | 会報発行、講演会の検討、その他           |           |               |
| (5)  | 9月26日     | 役員会                       | 10名出席     | 於：母校校長室       |
|      |           | 会報発行、講演会の検討、その他           |           |               |
| (6)  | 10月11日    | 体育祭                       | 2名出席      | 於：母校校庭        |
| (7)  | 10月31日    | 臨時役員会                     | 同窓会側8名出席  | 於：母校校長室       |
|      |           | 学校側3名（校長、副校長、加子先生）        |           |               |
|      |           | 3年生の就職活動に関する件、その他         |           |               |
| (8)  | 10月31日    | 中工祭（卒業生の歩み出展）             |           | 於：母校          |
| (9)  | 12月22日    | 講演会                       | 同窓会側10名参加 | 於：母校体育館       |
|      |           | 演題「卒業後の歩み」10期機械科卒 梅田清永様   |           |               |
| (10) | 2月6日      | 新春交歓会                     | 24名出席     | 於：グランド・パレスホテル |
| (11) | 3月5日      | 母校卒業式                     | 2名出席      | 於：母校体育館       |

### 平成22年度収支決算書

#### 収入の部

入会金	75,000.	3,000. × 25名
会費	252,000.	2,000. × 126名
寄附金	112,000.	
臨時会費	197,000.	総会、役員会、新春交歓会
預金利子	1,281.	
前期繰越金	2,480,288.	
合 計	3,117,569.	

#### 支出の部

行事費	211,422.	中工祭、講演会、新春交歓会
会議費	170,853.	総会、役員会
通信費	131,770.	
交通費	1,600.	
印刷費	250,309.	会報印刷他
事務用品費	3,480.	
卒業記念品代	34,020.	
部活動助成費他	110,060.	体育祭参加賞(60,060.を含む)
振り込み手数料	16,300.	
小 計	929,814.	
次期繰越金	2,187,755.	内訳 三菱東京 147,986.
合 計	3,117,569.	郵便貯金 24,985.
		三菱東京（定期）2,000,000.
		現金 14,784.

収支決算について上記の通り報告致します。

平成23年4月15日 会計 中村 真一 会計 島田 勝利

収支決算について関係書類を監査した結果、適正に処理されている事を認めます。

平成23年4月24日 会計監査 西村 満郎 会計監査 江野下 健二

### 平成23年度事業計画

#### 基本計画

基本的には前年度を踏襲するが、さらに親睦を深め母校への支援を強化していく。会報の発行、講演会の定期開催、文化祭への「卒業生の歩み」を充実していく。

1 同窓会会員の親睦を一層深めるため、おおいにアピールをする。

2 同窓会会報の発行。

3 行事（催し事）。

- |     |                            |
|-----|----------------------------|
| (1) | 母校入学式（4月7日）（同窓会より2名出席済み）   |
| (2) | 平成23年度定時総会（6月5日）           |
| (3) | 講演会（7月19日ごろ）               |
| (4) | 母校体育祭（9月30日）               |
| (5) | 母校文化祭（中工祭）（10月30日）卒業生の歩み出展 |
| (6) | 講演会（12月20日ごろ）              |
| (7) | 新春交歓会（2月上旬）                |
| (8) | 母校卒業式（3月3日）                |
| (9) | 役員会の随時開催（2ヶ月に1回程度）         |

### 平成23年度収支予算書

#### 収入の部

会費	360,000.	2,000. × 180名
寄附金	200,000.	
臨時会費	200,000.	
入会金	75,000.	3,000. × 25名
前期繰越金	2,187,755.	
合 計	3,022,755.	

#### 支出の部

行事費	220,000.	中工祭、新春交歓会、その他
会議費	170,000.	総会、役員会、新会員歓迎会、その他
通信費	110,000.	各種案内、その他
印刷費	320,000.	印刷その他
会報発送費	430,000.	
事務用品費	5,000.	
卒業記念品代	45,000.	
部活動助成費	50,000.	
体育祭参加賞費	60,000.	
振込み手数料	30,000.	
予備費	1,582,755.	
合 計	3,022,755.	

